

トーキョーロード
噺家人生 山あり、谷あり

〔第18回〕

寝床

+ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya +

コロナ自粛が明け、落語界も一部の寄席は6月1日より再開いたしました。そしてありがたいことに再開初日の新宿末廣亭昼席に出演いたしました。

ちなみに3カ月ぶりの高座でして、こんなに落語をしなかったのは落語家生活11年で初めてでした。

楽屋に入りますと、師匠方が「久しぶりの高座？ 稽古してた？」などと聞き合いをしており、お互いに探り合いをしておりました（笑）。この光景をみて高校時代の期末試験直前の会話を思い出してしまいました（笑）。

そして僕も高座に上がり落語をさせていただきました。ズバリ感想を言いますと初高座より緊張しました!!

高座に上がり、客席を見渡すとお客さんはマスクをしてソーシャルディスタンスの距離を空けて座っておりまして。普段と違った雰囲気と久しぶりだからなのか僕の落語感が相当鈍っており、早く感覚を戻さなきゃと焦っている今日この頃です。

しかしまたお客様の前で落語ができ

たことが本当に嬉しくもつと仕事がたくさんになりました。

早くお仕事、復活してくれ!!と願っております!

やはり落語は配信などではなく、人前でやるのが大事なのです。

今回は人前で自分の芸を披露したい旦那が出てくる落語「寝床」をご紹介します。

大店の旦那が義太夫に凝っていて、本人は素人としてはなかなかの腕前と思いついてるが、聴く人にとっては唸り声を聴かされているだけで嫌でしょうがない。ある日、旦那は番頭や丁稚に義太夫を披露するから、長屋の人々や取引先の人を集めるように指示します。

しかし呼びに行く、長屋の人々や取引先の方は旦那の義太夫が聴きたくないためにいろいろな理由をつけて断られてしまいました。

それを聞いた旦那はお酒などを用意してみんなに楽しんでもらおうと思っているのに、そんなに私の義太夫が聴きたくないのか、それなら取引もしな

いし、使用人にも出て行ってもらおうとカンカンに怒ってしまいました。

これで追い出されては大変だと仕方なく長屋の人々や取引先が集まりだし、旦那は機嫌を直しこれから旦那の義太夫が!

さあこのあとどうなるか!?

続きは落語会などでお楽しみください!
い!



profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。
2009年林家木久扇に入門
2013年二ツ目昇進。
身長192cmと、落語協会一の高身長!
趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。
空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。
初の著書『師匠!』発売中